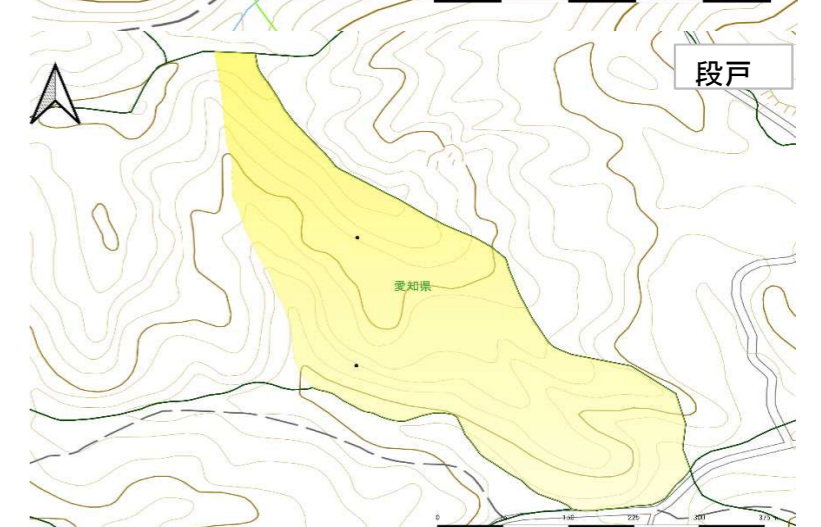
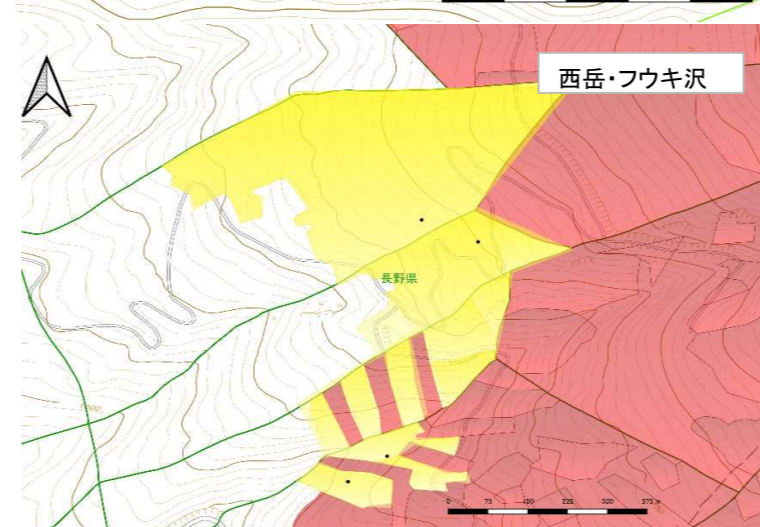
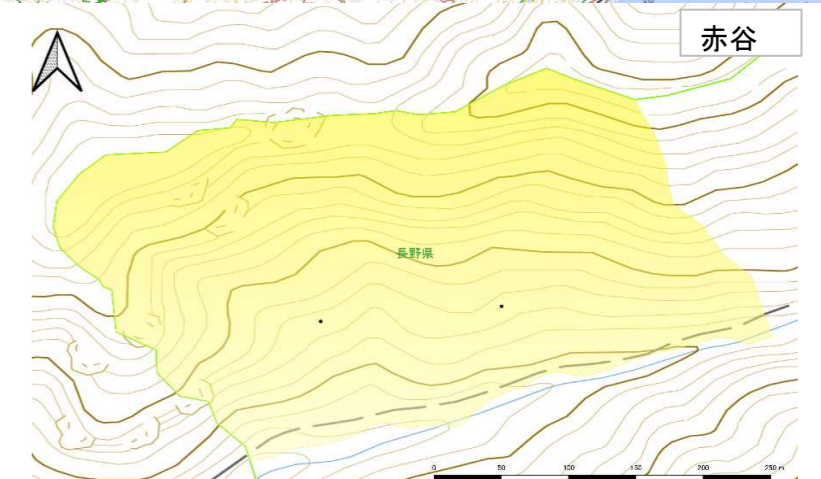
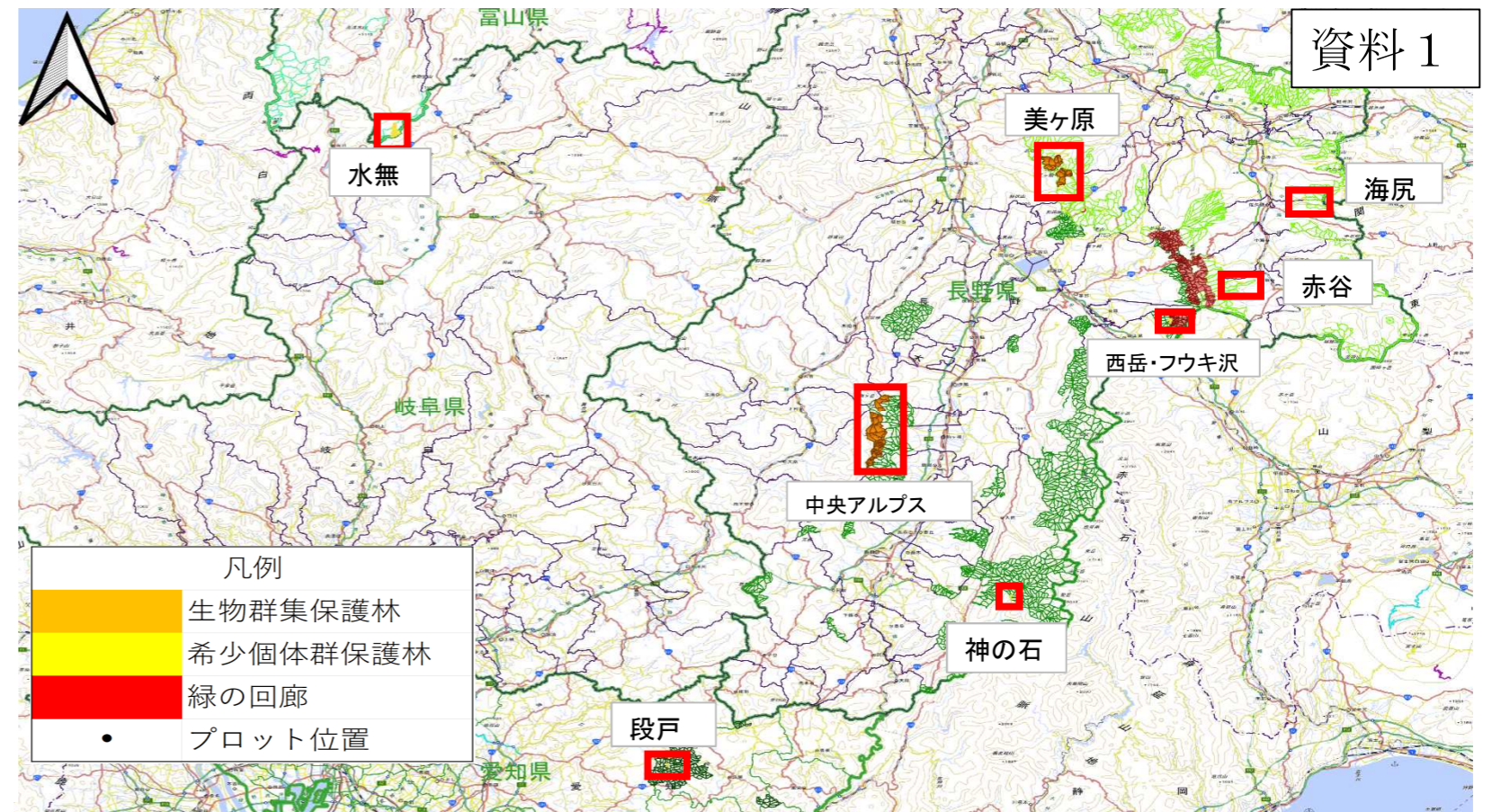
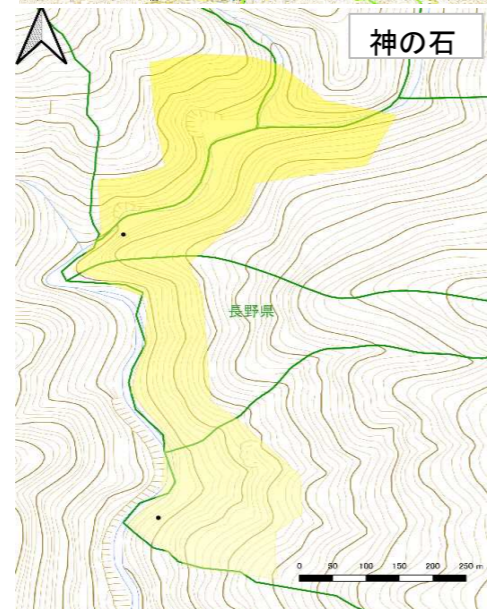
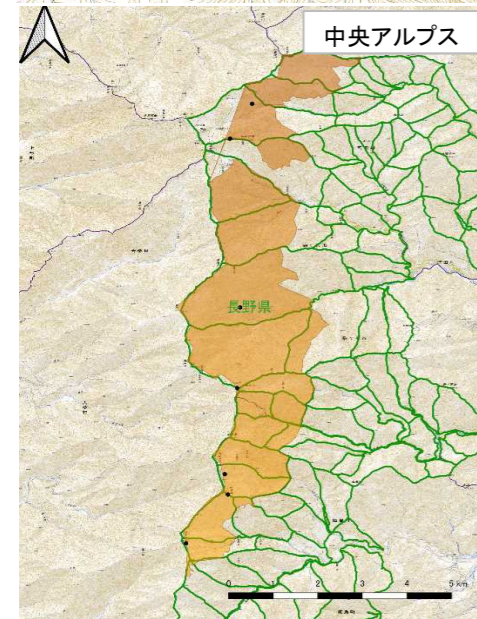
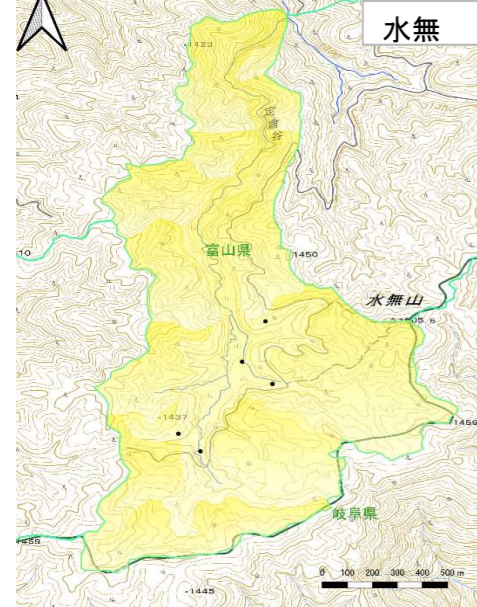






令和3年度 保護林モニタリング調査結果の概要

目次

- 保護林-1 水無湿性植物希少個体群保護林
- 保護林-2 美ヶ原生物郡集保護林
- 保護林-3 海尻ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林
- 保護林-4 赤谷コナラ等遺伝資源希少個体群保護林
- 保護林-5 中央アルプス(駒ヶ岳)生物群集保護林
- 保護林-6 西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林
- 保護林-7 神の石シダ希少個体群保護林
- 保護林-8 段戸モミ・ツガ希少個体群保護林



総括整理表





保護林名	水無湿性植物希少個体群保護林			
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・富山森林管理署			
所在地	富山県南砺市			
面積	215.59ha			
設定・変更年	平成16年4月1日設定、平成29年4月1日変更			
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
		<p>保護林の概要 (設定目的)</p> <p>ミズバショウ、リュウキンカ、コバイケイソウ、カタクリ、ヤマトリカブト等が見られる貴重な湿原及び周囲は100年を越す貴重なブナの天然林であるため、それらの個体群の保護・管理を図る。</p>		<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>○森林詳細調査 2箇所でプロット調査を実施した。ブナを主体とする森林である。林冠をブナが優占し、低木層にはハウチワカエデやコハウチワカエデ等のカエデ類が優占する。</p> <p>○高山植生等調査 3箇所でプロット調査を実施した。木本種や乾燥に強い草本種の増加、外来種の侵入、ミズバショウ等の湿地性の種の減少が確認された。湿原の陸化・乾燥化による影響と考えられる。</p>
	モニタリング実施間隔	5年		
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、白木水無県立公園		実施時期・回数 4回(令和3年、平成28年、平成23年、平成20年)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林の中央部分は湿地(林地外)であり、その周辺に天然生林が分布している。それらの周辺を取り囲むように育成天然林が分布している。保護林周辺は、天然生林の他、人工林1が分布している。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査/高山植生等調査	森林域のプロットでは、立木本数・胸高断面積合計共に増加傾向にあり、順調に生長していると考えられる。湿原のプロットでは、一部ツノハシバミやサワフタギ、ミズキとの低木の優占が見られた。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査/高山植生等調査	森林域のプロットでは、草本層にはクマイザサが高い被度で優占する。湿原のプロットでは、スゲ属spやオオバコウモリ、ハンゴンソウ、シャク、ヨシ等が優占する。外来種のエゾノギンギシの侵入が確認された。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査/高山植生等調査	森林域のプロットでは、雪圧による根曲がり木が確認されるが、地理的気象条件上の事象で異常ではないと考えられる。また、ニホンジカ等による森林被害が確認されないことから問題なしと考えられる。湿原のプロットでは、プロット周辺においてイノシシの掘跡や足跡が確認された。
保護対象種の生育・生息状況(希少個体群保護林)	資料調査/森林詳細調査/高山植生等調査	森林域のプロットでは、ブナは立木本数と胸高断面積合計共に僅かではあるが増加していることから、順調に生長していると考えられる。湿原のプロットでは、リュウキンカに大きな変化はなかったが、ミズバショウやヤマトリカブトの減少が確認された。湿原の陸化・乾燥化による影響と考えられる。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「保護林モニタリング調査報告書」等の2資料の他、「水無湿原保全整備事業」等のイベントに関する2文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	ワイヤーメッシュによる柵を湿原に設置しているが、イノシシ害が課題である。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	<p>確認できた影響[ア(野生鳥獣)、ウ(外来種)、カ(その他)]</p> <p>ア(野生鳥獣) イノシシによる植生被害の影響が懸念される。</p> <p>ウ(外来種) エゾノギンギシの侵入が確認された。</p> <p>カ(その他) ミズバショウやヤマトリカブト等の湿地性の種の減少が見られ、湿原の陸化・乾燥化の影響が懸念される。</p> <p>総合評価「要対策」 湿原水位レベルの改善や侵入木本種の伐採、加害獣の捕獲・駆除等の保全対策を検討する。</p>
--------	--

総括整理表

保護林名	美ヶ原生物群集保護林	 <p>プロット3 ニホンジカの剥皮被害によりシラビソの枯損木が多い</p>	 <p>プロット1 ニホンジカの食害によりクマイザサの草丈が低く抑えられている。</p>	 <p>プロット6 コメツガの大径木</p>
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・東信森林管理署			
所在地	長野県上田市武石及び小県郡長和町			
面積	1074.62ha			
設定・変更年	鹿伏山植物群落保護：昭和54年4月1日(659.55ha)、平成2年4月1日(615.76ha) 美ヶ原植物群落保護林：昭和48年4月1日(216.45ha)、平成5年4月1日(458.86ha) 美ヶ原生物群集保護林に再編成：平成30年4月1日変更			
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
		保護林の概要 (設定目的)	コメツガ、トウヒ、シラビソ、ウラジロモミ、ミズナラ、カエデ等から構成される亜高山帯の針広混交林を主体としており、これらの生物群集を有する森林の保護・管理を図る。	<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>○森林詳細調査 6箇所でプロット調査を実施した。コメツガやシラビソ、ダケカンバを主体とする森林である。林冠をコメツガやシラビソ、ダケカンバの大径木が優占し、リョウブやサラサドウダン等が低木層に散見されるが、低木層がない林分も多い。ニホンジカによるシラビソへの剥皮被害が多く、枯損木となっているものもある。コメツガやダケカンバの剥皮率も増加している。</p>
		モニタリング実施間隔	5年	
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、八ヶ岳中信高原国定公園、鳥獣保護区	実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林の林地部分のほとんどを天然生林が占めており、一部に人工林1が分布している。保護林周辺は、天然生林や人工林1の他、林地外が広く分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	立木本数は減少しているが、胸高断面積合計は大きく変わらないもしくは増加している。しかし、平成28年度調査時にニホンジカの剥皮被害による枯損木が多数確認され、本年度も剥皮木が多く確認されている。特にシラビソにおいては剥皮率が高く、枯損木となり、全体的に立木本数が減少している。コメツガやダケカンバも剥皮率が増加しつつある。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	過年度よりクマイザサが優占している群落が多いが、その全てでニホンジカの食害が確認され、草丈が低く抑えられている。確認種数が減少している群落もある。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	風害や雪害による倒木や幹折れが確認されるが、面的な被害は確認されていない。過年度よりニホンジカによる剥皮被害や食害が多数確認されている。草丈が抑えられたクマイザサや低木層の消失が見られており、植生被害レベル4と判定される群落もある。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「森林生態系生物多様性基礎調査報告書」等の3資料の他、信州大学の論文集等より15文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	事業を実施していないので、特に問題なし。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	<p>確認できた影響[ア(野生鳥獣)、カ(その他)]</p> <p>ア(野生鳥獣) ニホンジカによる剥皮被害や食害の影響が確認されている。特に旧鹿伏山植物群落保護林側で顕著で、コメツガやシラビソ等の生育への影響が懸念される。</p> <p>カ(その他) 風害や雪害による倒木や幹折れが確認されるが、面的な被害は確認されていない。</p> <p>総合評価「要対策」 特に平成28年度調査時以降に立木の減少が見られる群落においては、剥皮防止資材の設置や加害獣の捕獲・駆除等の保全対策を検討する。</p>
--------	---

総括整理表





保護林名	海尻ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット2の状況 下層植生の裸地化が進行		プロット3の状況 スズタケの草丈は1.5～1.7m		プロット3 ミズナラの大径木
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・東信森林管理署						
所在地	長野県南佐久郡南牧村						
面積	9.49ha						
設定・変更年	平成元年3月31日設定、平成29年4月1日変更						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	ミズナラ、シオジ、サワグルミ、等が群生する天然林であるためこれらのミズナラ等の個体群の保護・管理を図る。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) ○森林詳細調査 2箇所でプロット調査を実施した。シオジやサワグルミ、ミズナラを主体とする森林である。林冠をプロット2はシオジやサワグルミ、プロット3はミズナラの大径木が優占し、低木層をカエデ類が優占する。ただし、プロット3は低木の生育が少なく、ミズナラやコナラ、クリ等の後継樹が確認されなかった。ニホンジカの食害や剥皮被害が多数確認される。	
		モニタリング実施間隔	5年				
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林				
		実施時期・回数	4回(令和3年、平成28年、平成23年、平成20年)				

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は天然生林のみが分布している。保護林周辺には人工林が広く分布し、天然生林や育成天然林も分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	プロット2では、風倒害による立木本数と胸高断面積合計の減少が見られる。プロット3では、立木本数は減少傾向にあるが、胸高断面積合計に大きな変化はないことから、概ね順調に生長していると考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	プロット2で下層植生の裸地化が進んでいる。プロット3でスズタケが繁茂しているが、平成28年度以降に低木層が消失し、後継樹の生育が確認されない。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	風倒害による倒木が散見された。ニホンジカによる剥皮被害や食害が広がりつつある。
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査／森林詳細調査	シオジやサワグルミの成木への影響は確認されていないが、ミズナラの剥皮被害が増加している。過年度にミズナラで剥皮被害が原因と思われる枯損が確認されている。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「モニタリングサイト1000 里地調査」等の3資料の他、「信州の巨樹・名木-その活力評価」の1文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	事業を実施していないので、特に問題なし。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に取まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	確認できた影響[ア(野生鳥獣)、カ(その他)] ア(野生鳥獣) ニホンジカによる食害・剥皮被害が広がりつつある群落と考えられる。ミズナラへの剥皮被害の増加や後継樹の減少、下層植生の裸地化が進んでいる。 カ(その他) 風倒害による倒木が散見される。林道の通行に影響があることから、除去・整理等の実施が望まれる。 総合評価「要対策」 長期的な群落維持の観点より、剥皮防止資材の設置や加害獣の捕獲・駆除等の保全対策を検討する。
--------	--

総括整理表





保護林名	赤谷コナラ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット1 貧弱な下層植生		プロット2 貧弱な下層植生		プロット1 コナラの大径木
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・東信森林管理署						
所在地	長野県佐久市臼田						
面積	13.04 ha						
設定・変更年	平成元年3月31日設定、平成29年4月1日変更						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的) コナラ、ケヤキ、クリ等が群生する天然林であるため、それらの個体群の保護・管理を図る。			結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む) ○森林詳細調査 2箇所でプロット調査を実施した。 コナラやクリ、ケヤキを主体とする森林である。林冠をコナラやクリ、ケヤキの大径木が優占し、低木層をリョウブやアオダモ、マルバアオダモ等が優占する。 低木層・草本層共に貧弱で、裸地化が進んでいることから、ニホンジカの強い食害を受けている。		
		モニタリング実施間隔	5年				
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林			実施時期・回数	4回(令和3年、平成28年、平成23年、平成20年)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は天然生林のみが分布している。保護林周辺は、人工林が広く分布しており、一部に天然生林や育成天然林が分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	立木本数は減少傾向にあるが、胸高断面積合計は増加傾向にあることから、林冠木等の群落を形成している主な種は概ね順調に生長していると考えられる。主に減少している種は、ダンコウバイやヤマツツジ等の低木層の小径木である。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	草本層の被度が低く、確認種数も減少しており、下層植生の裸地化が進んでいる。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	風倒害による倒木が散見された。過年度にクリや枯損木にカミキリムシ跡が確認されている。ニホンジカの食害圧が大きく、裸地化が進んでいる。
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査／森林詳細調査	コナラ、クリ、ケヤキの後継樹が減少傾向にある。林冠を構成していたクリが枯損木となっていた。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「保護林モニタリング調査報告書」等の2資料の他、「コナラ、クスギ、クリの林木遺伝資源保存林」の1文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	事業を実施していないので、特に問題なし。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	確認できた影響[ア(野生鳥獣)、イ(病虫害)、カ(その他)] ア(野生鳥獣) ニホンジカによる下層植生への食害が大きい群落である。下層植生の裸地化が進み、保護対象種の後継樹が減少している。 イ(病虫害) 過年度にカミキリムシによる樹勢の衰退が確認されていることから、今後のモニタリングで注視する。 カ(その他) 風倒害による倒木が散見されたが、面的な被害は確認されない。 総合評価「要対策」 長期的な群落維持の観点より、加害獣の捕獲・駆除等の実施等の保全対策を検討する。
--------	---

総括整理表

保護林名	中央アルプス(駒ヶ岳)生物群集保護林		ハイマツ林 宝剣岳～檜尾岳区間		雪田草地 (木曾殿山荘周辺)		タカネトリカブト
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・南信森林管理署						
所在地	長野県駒ヶ根市、上伊那郡飯島町宮田村						
面積	2294.59ha						
設定・変更年	平成5年4月1日設定、平成10年4月区域拡張、平成30年4月1日変更						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	中央アルプスの駒ヶ岳(2956m)を主峰として将棋頭山(2736m)から越百山(2613m)に至る稜線の東斜面一帯(駒ヶ岳風致探勝林を除く)における池ノ平カール、池ノ平モレーン等の氷河地形等の特異な地理を保護する。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	○森林概況調査 将棋頭山～越百山の高山帯に踏査ルートを設定し、植物相調査と定点写真を撮影した。 ハイマツを主体とした天然林(老齢林)や雪田草地、岩場等が点在する。確認された植物種は41科140種で、その内重要種はミヤママイやタカネトリカブト、ハクセンナズナ等の7科11種であった。 定点写真の撮影において、急な天候変更により雨天となったため、空木岳～越百山にかけての見晴らしは確保できなかった。
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、鳥獣保護区、中央アルプス県立自然公園				
		実施時期・回数	2回(令和3年、平成22年)				

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は天然生林が広く分布し、尾根部に高山草地等(林地外)が分布している。保護林周辺は天然生林が広く分布し、斜面中～下部の一部に育成天然林や人工林1が分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林概況調査	大きな変化は確認されていない。 定点写真において天候のため十分な見通しが確保できなかったが、踏査ルート上において森林被害等の事象は確認されていない。
下層植生の生育状況	資料調査／森林概況調査	確認された重要種が過年度より増加し、良好な環境が維持されていると考えられる。
病虫害等発生状況	資料調査／森林概況調査	現地調査では森林被害をもたらすような事象は確認されず、大きな変化は見られなかった。 航空写真より崩壊地が多数確認されたが、地形・地質上、積雪の多い急峻な高山帯の谷部には崩壊地が形成されやすい。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「保護林モニタリング調査報告書」等の2資料の他、信州大学の論文集等より11文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	南アルプスのニホンジカが中央アルプスに侵入してきているとの話があり、ニホンジカによる被害の把握が重要である。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	確認できた影響[ア(野生鳥獣)、オ(自然撓乱)] ア(野生鳥獣) 現地調査では、森林被害をもたらすような事象は確認されず、大きな変化は見られなかった。 聞き取り調査で、南アルプスのニホンジカの侵入が懸念された。 オ(自然撓乱) 現地調査では、森林被害をもたらすような事象は確認されず、大きな変化は見られなかった。 航空写真より高山帯谷部に崩壊地が多数確認されたが、地形・地質上形成されるのであり、大きな問題はないと考える。 総合評価「健全」 登山利用者による踏圧等の影響はなく、問題となる鳥獣害や気象害等もみられず、良好な高山帯の状態が維持されていることから、「健全」と判断される。 ただし、ニホンジカの動向に関しては、今後のモニタリングにおいて注視していく必要がある。
--------	--

総括整理表


保護林名	西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林		プロット1 オニゼンマイにニホンジカの食痕を多数確認		プロット4 貧弱な下層植生		プロット2 ヤツガタケトウヒ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・南信森林管理署						
所在地	長野県諏訪郡富士見町						
面積	32.81ha						
設定・変更年	西岳ヤツガタケトウヒ等林木遺伝資源林：平成5年4月1日設定(昭和63年3月1日 生物遺伝資源保存林(第1種)を設定) フウキ沢ヤツガタケトウヒ植物群落保護林：平成20年4月1日設定 西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林に再編成：平成30年4月1日変更						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	ヤツガタケトウヒはハケ岳及び南アルプスのみに分布し、他に純林はないことから、混交しているカラマツとともに、貴重な遺伝資源として保存する。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	○森林詳細調査 4箇所プロット調査を実施した。ヤツガタケトウヒやカラマツ、ミズナラを主体とする森林である。林冠をヤツガタケトウヒやカラマツ、ミズナラの大径木が優占し、低木層をカエデ類やリュウブ、サラサドウダン等が優占する。下層植生にニホンジカの食痕が多数確認される。プロット4ではヤツガタケトウヒに剥皮防護ネットが設置されている。
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	鳥獣保護区				
						実施時期・回数	2回(令和3年、平成22年)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は、天然生林が広く分布している。保護林周辺は斜面上部～中部は天然生林が広く分布し、中部以下は人工林1が広く分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	立木本数は減少しているが、胸高断面積合計が増加していることから、概ね順調に生長している。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	保護対象種の実生・稚樹が消失した。一部の群落で下層植生が裸地化している。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	風倒害による倒木が散見された。ニホンジカによる下層植生への食害や立木への剥皮被害が見られる。一部のヤツガタケトウヒに剥皮防止資材が設置されている。
保護対象種の生育・生息状況(希少個体群保護林)	資料調査／森林詳細調査	概ね順調に生長しているが、過年度確認された実生・稚樹が消失した。また、過年度からヤツガタケトウヒにニホンジカによる剥皮被害が確認されている。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「保護林モニタリング調査報告書」等の2資料の他、「気候要因と地質要因を用いたヤツガタケトウヒとヒメバラモミの現在の分布域の推定」等の6文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	若い造林地ではシカ柵を設置して対応しているが、シカ害が課題である。近年の気象害に対する林道の維持管理が課題である。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に取まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	確認できた影響[ア(野生鳥獣)、カ(その他)] ア(野生鳥獣) ニホンジカによる下層植生への食害が大きい群落である。現状において、剥皮防止資材等の対策が実施されている場所もあるが、保護対象種の後継樹が減少し、下層植生への食害が多数確認されている。 カ(その他) 風倒害による倒木が散見されたが、面的な被害は確認されない。 総合評価「要注意」 林冠を構成している保護対象種は概ね順調に生長しているが、保護対象種の後継樹が減少し、ニホンジカによる下層植生の食害が懸念されることから、今後のモニタリングで注視する。 必要に応じて、剥皮防止資材の設置や加害獣の捕獲・駆除等の実施も検討する。
--------	--

総括整理表



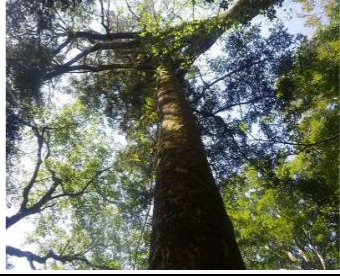

保護林名	神の石シダ希少個体群保護林			プロット1の林分状況		プロット2 山地溪流の増水により プロット北側半分の植 生の消失		プロット1 ヤシャイノデ	
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・南信森林管理署								
所在地	長野県飯田市上村								
面積	20.14ha								
設定・変更年	平成5年4月1日設定（昭和53年神の石シダ類学術参考保護林を設定）、平成30年4月1日変更								
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況			
			保護林の概要 (設定目的)	神の石の石灰岩地帯に自生するイノデ類のヤシャイノデは、中国大陸、ネパール、台湾に見られる。我が国では2箇所を数えるのみであり、そのうちのひとつである当群落を保護する。			結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	○森林詳細調査 2箇所プロット調査を実施した。 シオジやサワグルミ、カツラ等を主体とする森林である。林冠をシオジやサワグルミ、カツラが優占し、低木層をフサザクラやサワラ等が優占する。 ヤシャイノデは、プロット1で生育が確認された。 プロット2は、プロットの中心が河原に設置されており、中心杭は溪流の増水により消失していたため、再設置した。	
			モニタリング実施間隔	10年					
			法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林					
						実施時期・回数	2回(令和3年、平成22年)		

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は、天然生林のみが分布している。保護林周辺は天然生林の他、人工林1が広く分布しており、一部育成天然林が分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	立木本数と胸高断面積合計は共に大きな変化がない、もしくは微増であることから、過年度と大きな変化は見られない。 ただし、プロット2は増水により再設置となった。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	プロット2で増水により河原側のプロット半分の植生が消失した。 確認種数の減少が見られた。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	溪流の河原部は増水により植生が流されているが、森林部分に大きな被害はない。 ニホンジカによる食害等は確認されるが被害度合いは低い。
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査／森林詳細調査	プロット1でヤシャイノデの生育個体が複数確認された。 プロット2で増水によりプロット内のヤシャイノデが消失・流出した。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「保護林モニタリング調査報告書」等の2資料の他、「ヤシャイノデ保護回復事業計画」等の4文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	周辺でマツ枯れやナラ枯れが見られ、今後の動向に注視している。

※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	確認できた影響[オ(自然攪乱)] オ(自然攪乱) 溪流部の増水により、一部植生が消失し、ヤシャイノデの消失・流出が確認された。 総合評価「健全」 シオジやサワラ、カツラ等の立木に大きな変化はなく森林が維持されており、保護対象種であるヤシャイノデの生育が確認されたことから、「健全」と判断される。 ただし、溪流部の増水による植生の流出は今後も発生すると考えられることから、ヤシャイノデの流出状況を今後のモニタリングで注視する。
--------	---

総括整理表

保護林名	段戸モミ・ツガ希少個体群保護林		プロット1 スズタケの一斉開花に伴う枯死		プロット2 スズタケの一斉開花に伴う枯死		プロット1 モミの大径木
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・愛知森林管理事務所						
所在地	愛知県北設楽郡設楽町						
面積	14.32ha						
設定・変更年	大正14年4月1日(学術参考保護林)、平成5年4月1日設定、平成30年4月1日変更						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	太平洋側の代表的なモミ・ツガ・ブナの天然林が見られるため保護を図る。			結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	○森林詳細調査 2箇所でプロット調査を実施した。 モミやツガを主体とする森林である。林冠をモミやツガ、ブナ等の大径木 が優占し、低木層をカエデ類が優占する。 平成28年にスズタケの一斉開花があり、枯死が進んでいる。スズタケが 枯れることにより林床は明るくなっているが、新たな実生の発生も少ない ことから、ニホンジカによる食害を受けていると考えられる。
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、愛知高原国定公園、保健保安林、鳥獣保護区			実施時期・回数	3回(令和3年、平成27年、平成22年)

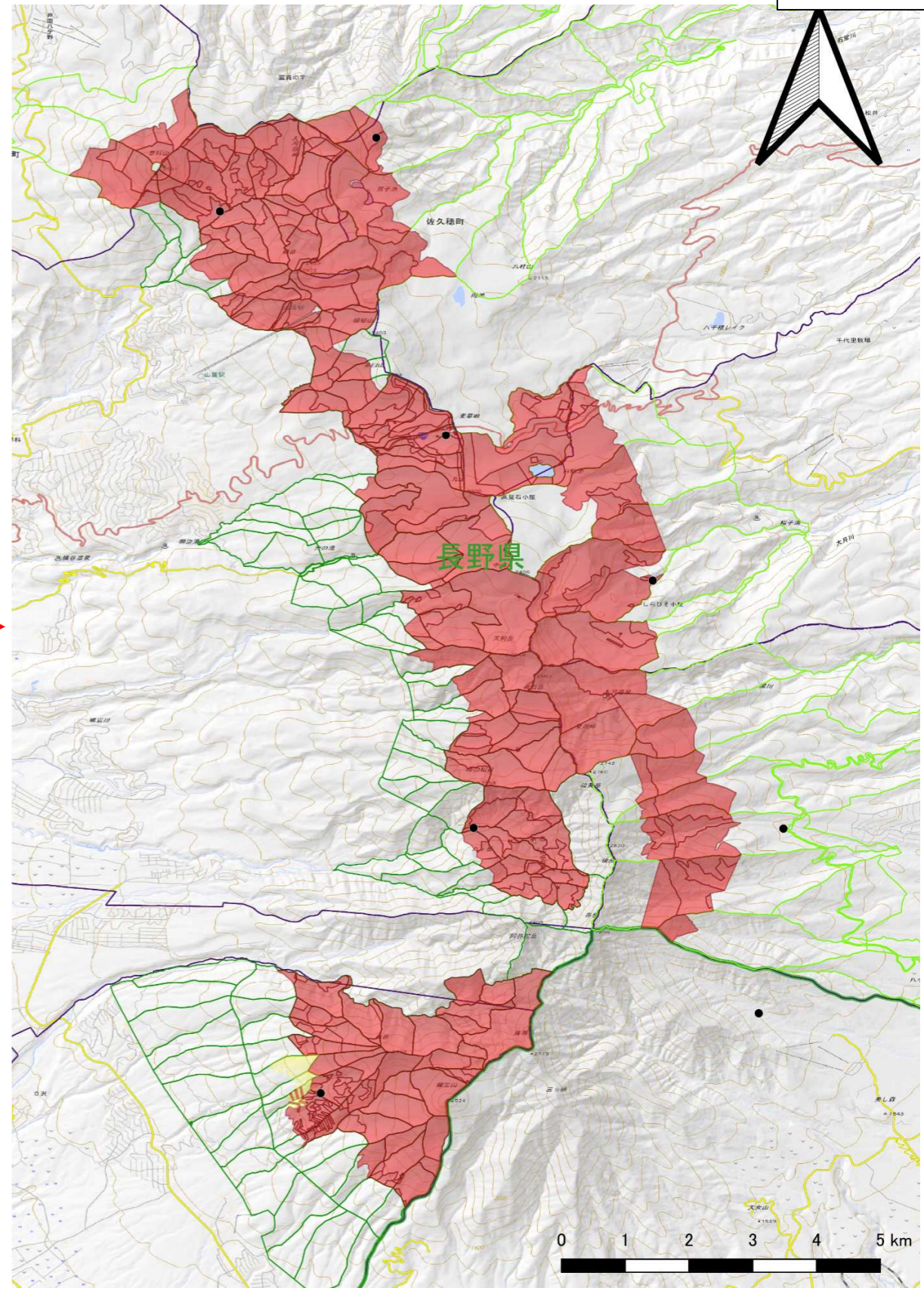
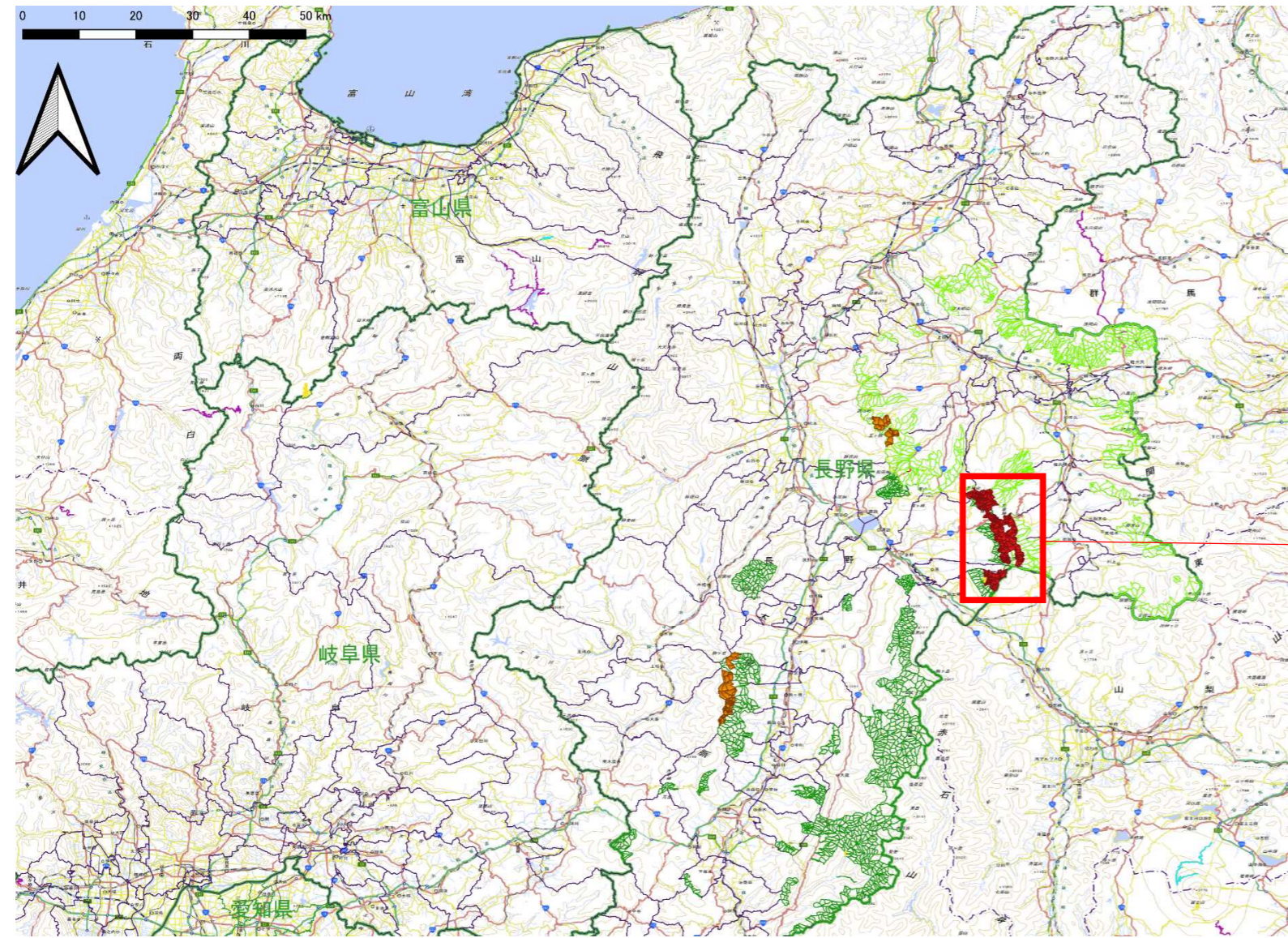
調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林は、天然生林のみが分布している。保護林周辺は天然生林が接して分布しているが、その周囲は人工林1が広く分布している。一部育成天然林や人工林2が分布している。
樹木の生育状況	資料調査／森林詳細調査	立木本数は平成22年設定時より減少しているが、胸高断面積合計は大きく変化がない、もしくは増加していることから、林冠を構成している立木において全体的に大きな変化はないと考えられる。 ただし、風倒害による倒木が散見された。
下層植生の生育状況	資料調査／森林詳細調査	平成28年にスズタケの一斉開花があり、その後全面的に枯死が進んでいる。林床は明るくなっているが、実生の発生が少ないことから、ニホンジカによる食害を受けていると考えられる。
病虫害等発生状況	資料調査／森林詳細調査	風倒害による倒木が散見された。 ニホンジカによる食害が多く、下層植生が貧弱である。
保護対象種の生育・生息状況 (希少個体群保護林)	資料調査／森林詳細調査	前回と大きな変化は見られない。 立木本数や胸高断面積合計が増加していることから、順調に生長していると考えられる。
論文等発表状況	資料調査	保護林及びその周辺で「モニタリングサイト1000 陸生鳥類調査」等の3資料の他、「段戸モミ・ツガ植物群落保護林(14.32ha)の林分構造とその動態」等の2文献が確認された。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	名古屋大学がリタートラップ等を用いたササの再生研究を実施している。 ナラ枯れはあるが、外来性のカミキリムシに関する調査は実施していない。 レクリエーション利用の為に危険木の伐採を実施しているが、原生林の枯損木に対してどの程度手を付けるべきかが課題となる。





※行わなかった調査項目、記載事項の無い欄は非表示とする。総括整理票に収まらない情報等については必要に応じて別紙として添付。

評価・課題等	<p>確認できた影響[ア(野生鳥獣)、イ(病虫害)、オ(自然攪乱)、カ(その他)]</p> <p>ア(野生鳥獣) スズタケの再生へのニホンジカの食害の影響等が懸念される。</p> <p>イ(病虫害) プロット内にナラ類やシイ・カン類は確認されていないが、ナラ枯れの状況について情報収集を続ける。</p> <p>オ(自然攪乱) スズタケの一斉枯死に伴う林内環境の変化がある。スズタケの再生については、名古屋大学等の研究機関との情報共有を継続し、知見の収集に努める。</p> <p>カ(その他) 風倒木が散見されるが、保護対象種であるモミ・ツガが順調に生長しており、現状において森林全体に大きな被害は確認されない。</p> <p>総合評価「要対策」 今後のモニタリングにおいて、下層植生の変化を注視するとともに、加害獣の捕獲・駆除等の実施等の保全対策を検討する。</p>
--------	---

令和3年度 緑の回廊モニタリング調査結果の概要


緑の回廊名 緑の回廊 八ヶ岳



凡例	
	生物群集保護林
	希少個体群保護林
	緑の回廊
	プロット位置

総括整理表

保護林名	緑の回廊八ヶ岳		プロット4 林況		プロット20 林況		ニホンジカ成獣雄
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・東信森林管理署・南信森林管理署						
所在地	長野県佐久市・立科町・佐久穂町・小海町・南牧村・茅野市・富士見町						
面積	国有林:5,835.31ha、山梨県有林:818ha、長野県内民有林:216ha						
設定・変更年	平成15年度設定						

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	保護林の概要 (設定目的)	緑の回廊設定区域は、千曲川上流森林計画区の蓼科山から伊那谷森林計画区の八ヶ岳連峰編笠山までの稜線を結ぶ区域で、八ヶ岳希少個体群保護林、白駒コメツガ希少個体群保護林、八ヶ岳生物群集保護林、西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林の各保護林を連結し、野生動植物の移動経路を確保し、生息・生育地の拡大と相互交流を促す等森林生態系の保護・保全を図ることを目的とする。 林況は亜高山帯のシラベ・コメツガ等の針葉樹天然林と高山帯で構成されている。 施業については「緑の回廊八ヶ岳設定方針」による。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	【平成25年度報告書より】 ・森林調査:シカ食害による被害を除き大きな変化は見られなかった。 ・種子の豊凶調査:結実したミズナラの木は全体のごく一部で、多くはなかった。 ・動物調査(哺乳類):8科10種の生息痕跡を確認。最多はニホンジカで他種に比べ非常に多く、自動撮影調査でもニホンジカの撮影枚数が40%を占め、生息数が非常に多いことが示された。 ・聞き取り調査:ニホンジカは佐久側で増加、諏訪側では例年並みか減少しているものの個体数は多い。天然林の剥皮被害やササの食害が多い。 ・ニホンジカ植生被害状況調査:釣竿を振って描く100㎡の円の範囲で調査を実施。全ての調査箇所でもシラビソの立ち木本数が多く、シラビソの生立木に占める被害の割合はP4やP27で高い。
	法令等に基づく指定概況	八ヶ岳中信高原国定公園、水源涵養保安林、鳥獣保護区、レクリエーションの森(自然休養林、自然観察教育林、その他)			実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林概況調査	資料調査/森林概況調査	・シラビソを中心にシカの剥皮被害が多く、立ち枯れが目立つようになっている。また、ササ類の優占しない箇所にはシラネワラビやヒメノガリヤスといったシカの嗜好性植物や採食耐性植物が優占している箇所が見られる。既にプロット周辺の落葉広葉樹林などではシカの食害の影響が顕著に表れており、多様性が著しく低下している。
森林調査	森林詳細調査	・高木層の毎木調査では、P20を除いて剥皮や角研ぎ等の獣害が増加しており、特にP4とP27で顕著である。また、P20、P7、P21、P9では胸高直径25cm以下の立木が減少している。 ・亜高木層では、生立木が北八ヶ岳地域で減少、南八ヶ岳地域で増加しており、特にP6、P4で大きく減少している。また、亜高木層や低木層で動物の餌資源として重要な液果を付ける樹木が減少している。 ・低木層の優占度や種数は、P21を除いて減少しており、多くの箇所でも後継樹が育っていない。なお、P21では草本層の樹木の種数が減少している。 ・全8プロットにおいて、調査プロット四隅の杭を新たに設置した。
シカ被害釣竿調査	釣竿プロットでのニホンジカ植生被害調査	・P4及びP27は立枯木の比率が他地点より飛びぬけて高い地点であり、森林の荒廃が懸念される。逆にP21では多地点に比べて被害率は20%程度と低い。 ・生立木に占める被害木の割合はP6、P20、P21で増加、P4とP27は高止まりであり、継続して強い被害を受けている。また、ササ類の矮小化(9年で10～30cm低下)が見られる。また、傾斜の急な箇所でも被害率が高くなってきており、樹種別ではオオシラビソやカラマツの被害率が増加している。
動物調査(哺乳類)	フィールドサイン調査	・痕跡調査及び直接観察により10科14種396例の哺乳類の生息痕跡を確認した。確認された痕跡が多い順にシカ(286例)、テン(32例)、キツネ(16例)の順に多く、痕跡確認の多かったプロットは、P12(10種)、P4(94例)、P4(80例)であった。令和3年に新たに確認された動物種はコウモリ目とノネコであった。 ・確認された動物の多くは、糞、食痕、足跡といった痕跡による確認であったが、直接姿が目撃された種は、ヒメミズ、コウモリ目SP、ニホンリス、ニホンジカ、カモシカであった。
	自動撮影カメラ調査	・全8調査プロットに各3台のデジタル式自動撮影カメラを設置し、哺乳類の撮影確認を行った。撮影期間は8月上旬から12月下旬までの約140日間である。9種が確認され、ニホンジカが全体の9割と高い割合を締めた。次いで撮影回数が多い種はカモシカ(86回)、テン(32回)であった。経年変化で出現する地点が減少傾向にある種として、コウモリ類、ニホンザル、タヌキが挙げられる。また、経年変化の中で一時増加であったものの、今回までに減少に転じた種はノウサギ、ニホンリス、キツネ、カモシカであった。経年変化で増加している種はシカであった。 ・ニホンジカは平成24～25年度調査で増加傾向が示されたが、今回さらに顕著に増加していることが確認された。平成24年と比較した場合、出現パターン・性比が地点毎に変化しており、全体的にシカの個体数が増加している傾向が伺えた。また、出産期の出現が増加した地点もあり、P27やP12は冬の越冬箇所となっていた。 ・ツキノワグマはこれまで確認されていなかったP6で初めて確認された。全体的に年により散発的な出現であり、八ヶ岳地域全体では生息個体数は少ないものと考えられる。
	資料調査/聞き取り調査	・農林業被害状況及び狩猟鳥獣に関する調査は、周辺市町村や担当地区の森林官、周辺の山小屋などに実施した。 ・カモシカの目撃が減り、ニホンジカの目撃や南部地域でツキノワグマの目撃が増加している。ニホンジカによる樹皮剥ぎは継続して増加しており、シラビソなどの針葉樹以外に、ナナカマドやダケカンバにも及んでいる。 ・防鹿柵が経年劣化や風倒木による柵の損傷により、柵内へのシカの侵入が確認されており、早急な対応が望まれる。

評価・課題等	<p>・本緑の回廊は、ニホンジカによる植生被害(森林被害)を受けて、生態系の崩壊に向けて危機的な状況にある。また、各調査プロットにおいて確認される哺乳類や鳥類に変化が生じてきている可能性が示唆された。今後、こうした状況に対策を講じなければ、緑の回廊の機能不全に陥るリスクを抱えていると評価される。当該地域で確認されている状況は、剥皮の増加、過去の剥皮被害木の立ち枯れ、林内空間の変化(枯れ木・倒木の増加や低木の減少)、ミズナラ等新たな樹種への剥皮の被害確認、下層植生の劣化、後継樹の阻害(シカの食害)、ササの矮小化、落葉広葉樹林における植生の多様性の顕著な低下である。</p> <p>・ニホンジカは平成22～25年度の前回調査で増加傾向にあったが、本年度はさらに増えている結果が得られた。</p> <p>・カモシカや中型～小型哺乳類の行動様式や生息分布、個体数に変化が生じ始めている可能性が示唆された。今後も継続的にも同様の手法でモニタリングしていく必要がある。さらに、必要な項目や追加の調査を検討し、対策実行を急ぐ必要がある。対策の実施及び有効性が遅ければ、シカの被害を受ける前の本来の生態系に戻ることが不可能になる可能性がある。</p>
--------	--

令和 4 年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査 計画について

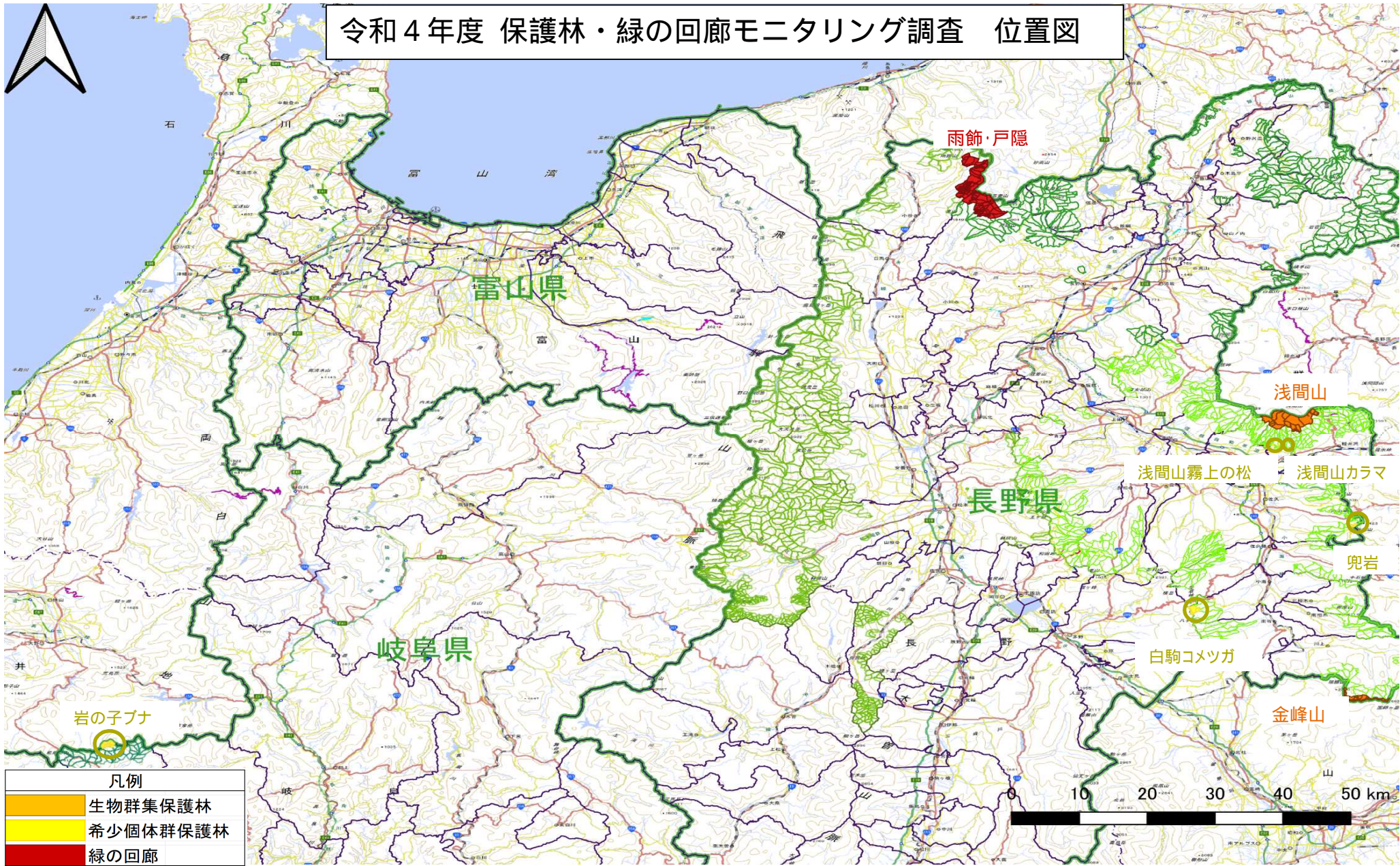
保護林モニタリング調査

	森林計画区	調査予定保護林	面積
1	千曲川上流	金峰山生物群集	433.38ha
2	千曲川上流	浅間山生物群集	1919.79ha
3	千曲川上流	兜岩希少個体群	36.57ha
4	千曲川上流	浅間山カラマツ希少個体群	1.49ha
5	千曲川上流	浅間山霧上の松希少個体群	10.2ha
6	千曲川上流	白駒コメツガ希少個体群	183.34ha
7	揖斐川	岩の子ブナ希少個体群	182.41ha

緑の回廊モニタリング調査

	森林計画区	調査予定緑の回廊	面積
1	中部山岳 千曲川下流	緑の回廊 雨飾・戸隠	3792ha

令和4年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査 位置図



中部森林管理局 年度別「保護林モニタリング調査」一覧

調査の結果、確認できた影響について、保護林モニタリング調査マニュアルP23の「項目」を、
直営調査が遠望のみの場合は「遠望」と記載。

実施 × 計画したが未実施

実施(森林官等による調査)

予定

予定(森林官等による調査)

番号	局	計画区	該当署等	新保護林	統合または、編入された旧保護林	プロット数	ha	モニタリング実施年度														モニタリング実施予定												モニタリング開始	備考							
								H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12												
1-1	関東中部	千曲川下流	北信署	佐武流山周辺森林生態系保護地域	佐武流山周辺森林生態系保護地域	3	8839.25	健全				健全													健全																10	
1-2	中部	中部山岳	中信署 飛騨署	北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部) 森林生態系保護地域	北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部) 森林生態系保護地域	4	8099.39	健全	健全			健全							健全																					10		
1-3	関東中部	伊那谷	南信署	南アルプス南部光岳 森林生態系保護地域	南アルプス南部光岳 森林生態系保護地域	3	1511.03				要注意 鳥獣																													10		
1-4	中部	木曽谷	木曽署南木曽支署	中央アルプス木曽駒ヶ岳 森林生態系保護地域	中央アルプス木曽駒ヶ岳 森林生態系保護地域	5	4140.2		健全 その他										健全 その他																					10		
1-5	中部近中	宮・庄川	飛騨署	白山森林生態系保護地域	白山森林生態系保護地域	3	7764	健全 その他				健全								健全 外来種																				10		
2-1	中部	神通川 中部山岳	富山署 中信署	北アルプス(朝日・白馬連山) 生物群集保護林	朝日岳垂直森林帯植物群落保護林 白馬岳高山植物群落保護林	6	6075.52		健全			健全							健全																				10			
2-2	中部	神通川 中部山岳	富山署 中信署	北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢 天狗)生物群集保護林	黒部峡谷特定地理等保護林 立山の山崎園谷特定地理等保護林 針ノ木・龍ヶ岳特定地理等保護林 五竜・鹿島槍ヶ岳特定地理等保護林 白沢天狗山植物群落保護林	6	10752.87		健全			健全							健全																				10			
2-3	中部	千曲川下流	北信署	カヤの平等生物群集保護林	カヤノ平ブナ林木遺伝資源保存林 カヤノ平ブナ植物群落保護林 鳥甲山特定地理等保護林	7	1399.83	健全				健全							健全																				10			
2-4	中部	千曲川下流	北信署	戸隠山生物群集保護林	戸隠ハルニレ等林木遺伝資源保存林 戸隠野鳥生息地特定動物生息地保護 林 戸隠山特定地理等保護林	2	1889.47	健全				健全							健全																				10			
2-5	中部	千曲川下流	北信署	苗場山湿原生物群集保護林	苗場山湿原植物群落保護林 月夜立特定地理等保護林	5	1327.14	健全				健全							健全																			10				
2-6	中部	中部山岳	中信署	雨飾・天狗原山生物群集保護林	雨飾・天狗原山植物群落保護林	3	1565.06		健全			健全							健全 外来種																				10			
2-7	中部	中部山岳	中信署	北アルプス(蝶ヶ岳・大天井岳・槍ヶ 岳・穂高岳)生物群集保護林	大天井岳植物群落保護林 槍ヶ岳・穂高特定地理等保護林 常念・蝶ヶ岳特定地理等保護林	3	7161.15		健全			健全							健全																				10			
2-8	中部	中部山岳	中信署	鷹羽岳・硫黄・高瀬渓谷生物群集保護 林	鷹羽岳等高山植物群落保護林 高瀬渓谷噴湯丘特定地理等保護林 硫黄岳特定地理等保護林	3	2550.3		健全			健全							健全																				10			
2-9	中部	中部山岳	中信署	梓川・霞沢・焼岳生物群集保護林	梓川・霞沢植物群落保護林 焼岳特定地理等保護林	4	2572.24		健全			健全							健全																				10			
2-10	中部	宮・庄川 中部山岳	飛騨署 中信署	乗鞍岳生物群集保護林	名古屋ラube、アオモリドマツ、ドワヒ、 コメツガ11林木遺伝資源保存林 のりくら郷土の森 乗鞍岳特定地理等保護林 乗鞍岳特定地理等保護林	3	5739.68	健全				健全							健全							健全													10			
2-11	中部	千曲川上流	東信署	金峰山生物群集保護林	笠峰山アオモリドマツ林木遺伝資源保 存林 金峰山植物群落保護林	6	433.38	要注意 鳥獣				健全							健全																				10			
2-12	中部	千曲川上流	東信署	浅間山生物群集保護林	浅間山カラマツ林木遺伝資源保存林 浅間山高山植物群落保護林 浅間山特定地理等保護林	10	1919.79	健全				健全							健全																			10				
2-13	中部	千曲川上流	東信署	美ヶ原生物群集保護林	鹿伏山植物群落保護林 美ヶ原植物群落保護林	6	1074.62	健全				健全							健全																			5	ニホンジカの剥皮被害が目立つ ため			

調査の結果、確認できた影響について、保護林モニタリング調査マニュアルP23の「項目」を、
直営調査が遠望のみの場合は「遠望」と記載。

番号	局	計画区	該当署等	新保護林	統合または、編入された旧保護林	プロット数	ha	実施 × 計画したが未実施															実施(森林官等による調査)												予定												モニタリング 周期	備考
								モニタリング実施年度															モニタリング実施予定																									
								H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12																		
3-9	中部	千曲川下流	北信署	米子希少個体群保護林	米子大型鳥類生息地特定動物生息地保護林	1	1153.02	— イヌワシあらず															— イヌワシあらず												10													
3-10	中部	中部山岳	中信署	風吹き遺伝資源希少個体群保護林	風吹きスギ林木遺伝資源保存林	1	11.26	健全 その他			健全 病害虫			健全			健全															10																
3-11	中部	中部山岳	中信署	鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林	鹿島ヒノキ等林木遺伝資源保存林	1	10.94	健全			健全			健全 鳥獣															10																			
3-12	中部	中部山岳	中信署	湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ遺伝資源希少個体群保護林	湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ等林木遺伝資源保存林	1	63.76	健全			健全			健全															10																			
3-13	中部	中部山岳	中信署	上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林	上高地ケショウヤナギ等林木遺伝資源保存林 上高地ケショウヤナギ植物群落保護林	4	50.9	健全			健全			健全 鳥獣															10																			
3-14	中部	中部山岳	中信署	梓湖希少個体群保護林	梓湖植物群落保護林	2	302.25	健全			健全 鳥獣			健全 鳥獣															10																			
3-15	中部	千曲川上流	東信署	海尻ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林	海尻ミズナラ等林木遺伝資源保存林	2	9.49	健全			健全			要対策 鳥獣 ×			要対策 鳥獣 ×															5	ニホンジカの食害により下層植生への影響が顕著なため。															
3-16	中部	千曲川上流	東信署	兜岩希少個体群保護林	兜岩特定地理等保護林	5	36.57	健全			健全			健全 鳥獣															10																			
3-17	中部	千曲川上流	東信署	赤谷コナラ等遺伝資源希少個体群保護林	赤谷コナラ等林木遺伝資源保存林	2	13.04	健全			要注意 鳥獣			要注意 鳥獣			要注意 鳥獣															5	ニホンジカの食害により下層植生への影響が顕著なため。															
3-18	中部	千曲川上流	東信署	浅間山カラマツ希少個体群保護林	浅間山カラマツ植物群落保護林	2	1.49	健全			要注意 その他			健全															10																			
3-19	中部	千曲川上流	東信署	浅間山霧上の松希少個体群保護林	浅間山霧上の松植物群落保護林	2	10.2	健全			要注意 病害虫			健全															10																			
3-20	中部	千曲川上流	東信署	大門山希少個体群保護林	大門山大型鳥類生息地保護林	94.49	— イヌワシあらず	— イヌワシあらず																												東信署で行っているイヌワシの調査と並行する。												
3-21	中部	千曲川上流	東信署	白駒コメツガ希少個体群保護林	白駒コメツガ植物群落保護林	2	183.34	健全			健全 その他			健全 鳥獣															10																			
3-22	中部	伊那谷	南信署	西岳・フウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林	西岳ヤツガタケトウヒ等林木遺伝資源保存林 フウキ沢ヤツガタケトウヒ植物群落保護林	3	32.81	健全 鳥獣			健全			×			×			×			×			×			×			×			10	要注意 鳥獣												
3-23	中部	伊那谷	南信署	小黒川ウラジロモミ遺伝資源希少個体群保護林	小黒川ウラジロモミ等林木遺伝資源保存林	2	11.48	要注意 鳥獣			要注意 鳥獣			要注意 鳥獣			要注意 鳥獣															10																
3-24	中部	伊那谷	南信署	大河原イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林	大河原イヌブナ等林木遺伝資源保存林	2	43.93	健全			健全			要注意 鳥獣			遠望															10																
3-25	中部	伊那谷	南信署	八ヶ岳縞枯山希少個体群保護林	八ヶ岳縞枯山植物群落保護林	2	46.85	要注意 鳥獣			要注意 鳥獣			要対策 鳥獣 ×			要注意 鳥獣															10																
3-26	中部	伊那谷	南信署	七島八島湿原希少個体群保護林	七島八島湿原植物群落保護林	2	63.91	要対策 外来種 ×			健全			健全			健全															10																
3-27	中部	伊那谷	南信署	豊口山シダ希少個体群保護林	豊口山シダ植物群落保護林	2	57.35	健全			健全			要注意 鳥獣 ×			健全															10																
3-28	中部	伊那谷	南信署	神の石シダ希少個体群保護林	神の石シダ植物群落保護林	2	20.14	健全			健全			×			健全															10																
3-29	中部	伊那谷	南信署	燕岩希少個体群保護林	燕岩植物群落保護林	2	98.1	健全			健全			×			×															10																
3-30	中部	伊那谷	南信署	丸山谷希少個体群保護林	丸山谷ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林	2	51.02	健全			健全			健全			健全															10																
3-31	中部	伊那谷	南信署	小瀬戸谷・東風巻谷希少個体群保護林	小瀬戸谷・東風巻谷ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林	2	122.01	健全			健全			健全 鳥獣			要注意 鳥獣															10																
3-32	中部	伊那谷	南信署	風巻峠希少個体群保護林	風巻峠ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林	2	71.15	健全 鳥獣			要注意 鳥獣			×			×															10																

調査の結果、確認できた影響について、保護林モニタリング調査マニュアルP23の「項目」を、直営調査が遠望のみの場合は「遠望」と記載。

実施 × 計画したが未実施

実施(森林官等による調査)

予定

予定(森林官等による調査)

番号	局	計画区	該当署等	新保護林	統合または、編入された旧保護林	プロット数	ha	モニタリング実施年度															モニタリング実施予定												備考				
								H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12									
3-33	中部	伊那谷	南信署	白岩岳カマツ等希少個体群保護林	白岩岳カマツ植物群落保護林 白岩岳特定地理等保護林	3	95.34			健全							健全 鳥獣害										遠望											10	
3-34	中部	伊那谷	南信署	巫女淵希少個体群保護林	巫女淵特定地理等保護林	1	182.52			健全							健全										健全										10		
3-35	中部	木曾谷	木曾署	皆沢アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林	皆沢アカマツ等林木遺伝資源保存林	2	9.62			健全						健全 病害虫										健全											10		
3-36	中部	木曾谷	木曾署	寝覚の床サワラ遺伝資源希少個体群保護林	寝覚の床サワラ林木遺伝資源保存林	2	57.25			健全						健全										健全											10		
3-37	中部	木曾谷	木曾署	瀬戸川ヒノキ等希少個体群保護林	瀬戸川ヒノキ等植物群落保護林	2	2.24			健全						健全										健全											10		
3-38	中部	木曾谷	木曾署	台ヶ峰サワラ希少個体群保護林	台ヶ峰サワラ植物群落保護林	2	7.2			健全						健全										健全											10		
3-39	中部	木曾谷	木曾署	鉢盛山コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林	鉢盛山コメツガ等林木遺伝資源保存林	2	75.07			健全 自然攪乱						健全 自然攪乱										健全											10		
3-40	中部	木曾谷	木曾署	油木沢ヒノキ希少個体群保護林	油木沢ヒノキ植物群落保護林	2	48.8			健全						健全										健全											10		
3-41	中部	木曾谷	木曾署	新高コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林	新高コメツガ等林木遺伝資源保存林	2	51.13			健全						健全										健全											10		
3-42	中部	宮・庄川	飛騨署	平湯ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋ダケカンバ5林木遺伝資源保存林	2	26.46			健全																											10		
3-43	中部	宮・庄川	飛騨署	宮ツメタ谷ヒノキ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋ヒノキ6林木遺伝資源保存林	2	8.98			健全																												10	
3-44	中部	宮・庄川	飛騨署	位山刈安アカマツ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋アカマツ7林木遺伝資源保存林	2	4.59			健全 その他																												10	
3-45	中部	宮・庄川	飛騨署	軽岡スギ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋スギ12林木遺伝資源保存林	2	10.68			健全						健全 鳥獣																						10	
3-46	中部	宮・庄川	飛騨署	大白川ドロノキ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋ドロノキ13林木遺伝資源保存林	2	6.58			健全																												10	
3-47	中部	宮・庄川	飛騨署	万波ブナ希少個体群保護林	万波ブナ植物群落保護林	3	295.84			健全																												10	
3-48	中部	宮・庄川	飛騨署	天生希少個体群保護林	天生高層層原植物群落保護林	3	7.15			要注意 その他																												10	
3-49	中部	宮・庄川	飛騨署	山中山希少個体群保護林	山中山ミスバショウ植物群落保護林	3	1.99			要対策 鳥獣×																												10	
3-50	中部	宮・庄川	飛騨署	御岳希少個体群保護林	御岳オサバグサ植物群落保護林	2	18.39			健全																												10	
3-51	中部	飛騨川	岐阜署	赤沼田天保ヒノキ希少個体群保護林	赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林	2	3.25			健全							健全																					10	
3-52	中部	長良川	岐阜署	イボラスギ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋スギ3林木遺伝資源保存林	2	9.34			健全 その他							健全 病害虫																						10
3-53	中部	長良川	岐阜署	金華山アラカシ・ツブラジイ遺伝資源希少個体群保護林	名古屋アラカシ・ツブラジイ4林木遺伝資源保存林	2	10.81			健全							健全 病害虫																					10	
3-54	中部	揖斐川	岐阜署	岩の子ブナ希少個体群保護林	岩の子ブナ植物群落保護林	3	182.41			健全		x																										10	
3-55	中部	木曽川	東濃署	小里コウヤマキ希少個体群保護林	小里コウヤマキ植物群落保護林	2	18.73			健全							健全																					10	
3-56	中部	東三河	愛知事務所	段戸モミヅガ希少個体群保護林	段戸モミヅガ植物群落保護林	2	14.32			健全							健全																					10	

中部森林管理局 年度別「緑の回廊モニタリング調査」一覧

	モニタリング調査			
	雨飾・戸隠	八ヶ岳	白山	越美
H14				
H15				
H16				
H17				
H18				
H19				
H20				
H21				
H22				
H23				
H24				
H25				
H26				
H27				
H28				
H29				
H30				
R1				
R2				
R3				
R4(実施予定)				